



発行責任者 齋藤隆靖 編集責任者 滝沢寿隆

2023年11月15日号

平和 働き、生活できる
人権 労働条件を獲得しよう

環境

ホームページ



メール

<http://unionpeace.main.jp/>info@unionpeace.main.jp

ユニオンネット平和センター（略称：ユニオン平和）

〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-15-9 武蔵野ビル 2F 労働相談室気付

TEL 070-6576-2071

FAX 03-5577-7263

憲法9条・脱原発の思いを強くしたできごと

雲一つない、11月3日の2023年憲法大集会には今年も多くの方が集まった。主催者や各政党の挨拶のなかで、10月7日のハマスによるイスラエルの攻撃とそれに対するイスラエルの報復攻撃について触れた発言が多かった。国際法では他国に侵略された場合、侵略された国は自衛する権利を認めている。最初に攻撃し、イスラエル市民を約1,400人殺戮したハマスに問題があるのだが、一方で、その何倍もの大量虐殺を行っているイスラエルの報復攻撃は明らかに、自衛権という国際法を逸脱したもので、言葉は悪いがこの機会を利用してハマスを壊滅したいという意思が読み取れる。私はイスラエルやパレスチナ問題についての知識や理解が極めて乏しくて、現在、勉強中だが、どんな理由があるにしても、市民への攻撃や虐殺行為は認めることはできないし、国際社会は呼応して止めなくてはいけないと思う。政治学者だった、ルソー（哲学者のルソーではない）が「戦争の究極目的は国と国民との社会契約の破壊である」と書いてあるのを読んだことがあるが、換言すれば、「その国の憲法の破壊である」と言っている。改めて国際問題の解決方法の手段として、戦争放棄の9条を持つ憲法の正しさと意味を再確認し、岸田政権が進める軍拡、戦争への道、改憲阻止の闘いに対する、より一層の決意をするものである。11月11日から新潟で第60回護憲大会が開催され、個人的努力もあり、ユニオン平和から宮川次長が参加したが、今後も組織として継続して参加できる体制を構築したい。

先日、入社同期で職場を早期退職して、大分に帰ったが、その後、音信不通となっていたT君から昨年、ひょんなことから連絡があり、彼がこちらに来るといので、当時の独身寮の仲間10人で、OB会を開いた。彼と会うのは40年ぶりで、お互いに頭を見ながら、「それなりに年を立ったなあ」と旧交を温めた。お互いの近況報告で、参加していた2つ後輩のI君から、次の様な話があった。彼は実家の稼業である家具製造を手伝うため、福島の南相馬市に帰り、結婚し子供（娘）を2人設けたが、妻が42歳で亡くなり、父母と彼が育てたそうである。東日本大震災では、福島第一原発事故に遭遇し、避難生活を半年間強いられたそうで、実家が高台にあり、津波の被害は免れたが海水が畑を襲うのを見たという。南相馬市は避難解除となったが、今でも約3割の住民しか戻ってなくて、それも年寄ばかりで、いずれまちには誰も住まなくなるだろうと話していた。住んでいなくても実家の固定資産税は取られているという。彼は震災で人生観が変わったとそうで「今日、自分のやりたい事は今日やる」とのこと、何でも先送りになっている自分としては耳が痛かった。私が、反原発、汚染水問題で集会等に参加していることを話したら、喜んでくれた。知り合いに原発事故に合い、苦労した話を聞いて、改めて脱、反原発の闘いを強く思った。

滝沢寿隆

平和・人権・環境



11.5 11.10 パレスチナに平和を

「パレスチナに平和を」の思いで、11月5日には「銀座デモ」、10日には「緊急行動」が、青山にある国連大学前で4000人が集まり行われた。パレスチナ情勢の緊迫が続いている。イスラエルとイスラム組織ハマスの一連の衝突で、ガザ地区の保健当局は6日、先月7日からのガザ地区の死者が1万22人になったと発表した。このうち4割以上に当たる4104人は子どもだということである。



デモ 10月5日



デモ 10月10日

11月5日は、日比谷公園幸門に「パレスチナに平和」を求め、停戦を願う市民、イスラエルの人、アラブの人たちが集まり、デモ行進する前のミニ集会を開いた。デモ行進は、アラブ語、英語、日本語を交えたコールで銀座を整然と行進、「パレスチナに平和」「直ちに停戦」を訴えた。11月10日は、雨の上だった東京・青山にある国連大学前に「パレスチナに平和を」の思いを持つ市民、パレスチナの人、外国の人たちが集まった。

イスラエルは大量虐殺によるガザの壊滅とパレスチナの全面占領を企てるジェノサイドだ。米艦隊は地中海東部に進出、第5次中東戦争勃発の危機である。これは絶対に止めなくてはならない。



デモ 10月5日

デモ行進前のミニ集会では、国際ボランティア団体の方が「一年前にガザに行きました。



デモ 10月10日



今の虐殺は目を覆います。これまで何度もガザ攻撃あましたが、ガザ市民は抵抗できないでいます。

毎日の生活、生きてゆくのに精一杯でいます。インフラは遮断されどうして生きて行けるのかの状態です。祈りだけです。

即時停戦を声を上げます」と訴えた。

続いてハニーさんから、「私はガザ出身です。毎日々々仲間の無事を祈っています。子どもが殺されたニュースを聞くと苦しいです。34日間で1万人以上が殺され子どもたちも！大量ジェノサイド止めて！パレスチナの解放を！自由のため正義のため、パレスチナ人のために、イスラエルのパラサイトヘイトに負けない。みんなさんと共に平和を！パレスチナ自由を要求！ガザ攻撃は大量虐殺やめさよう。世界は目を覚ました、戦場になった生中継で悲惨が明らかになりました」と訴えた。



デモ 10月10日

その後デモ行進は、青山道理を通り国連大学前まで、「攻撃の即時中止！イスラエルはガザへの軍事攻撃を止めろ！」「国際法と国連決議違反の占領と入植をやめろ！」をスローガンに、ボード、横幕、のぼりを掲げ青山通りを埋めつくして行われた。

その後デモ行進は、青山道理を通り国連大学前まで、「攻撃の即時中止！イスラエルはガザへの軍事攻撃を止めろ！」「国際法と国連決議違反の占領と入植をやめろ！」をスローガンに、ボード、横幕、のぼりを掲げ青山通りを埋めつくして行われた。



ガザ



ガザ

11.3 憲法集会・護憲大会



憲法集会

「つなごう 憲法をいかす未来へ・11・3 憲法大行動」が、国会正門前で日本国憲法の公布の日

に開かれた。憲法公布から77年、平和主義日本国憲法は戦争をしない。一人の戦死者をださない。民主主義を徹底してきた。しかし、自民党は憲法草案を作り、戦前に戻す憲法改悪を進めている。衆議院の憲法審査会は、2022年1月からほぼ毎週開催しています。改憲派(自民、公明、維新、国民民主)は、議員任期の延長(緊急事態条項)と自衛隊明記の改憲の条文案づくりが目の前の状況となっています。私たちは、平和主義日本国憲法を改悪させない。日本を戦争のできる国にさせないの声を高く上げよう。

「憲法理念の実現をめざす」第60回護憲大会が、11月11日～13日の日程で新潟市(新潟県民会館)で開かれた。憲法改悪の危機の中、自民党憲法草案が示すように、緊急事態条項を認めさせ、第9条の否定、自衛隊明記で戦争のできる国に仕立てることが明らかだ。私たちは絶対に認めない。その思いをこめた護憲大会が開催された。



護憲大会第5分科会

大会2日目は、五つの分科会が新潟市内で開かれ、第5分科会の「憲法を学ぶ」(清水



護憲大会

雅彦日体大教授)に参加した。冒頭から国会情勢に触れ、立憲野党を勝たさねければいけません」と強調された。



沖縄・南西諸島からの訴え

「沖縄を再び戦さ場にするな!沖縄・南西諸島からの訴え!」山城博治さんの全国キャラバンが行われた。10月19日は東京で駅頭街宣を実施した。新橋駅には大椿ゆう子さん(参院議員)、有楽町前には、杉浦弁護士、新宿駅では、佐高信さん、福島みずほ参院議員、辛淑玉さんが加わり、水摩雪絵さん(葛飾区議)の司会で進められた。

車上で山城博治さんは、多くを語った。辺野古新基地建設はおかしいと県民と玉城知事が判断して最高裁に上告した。「最高裁の判断を破る玉城知事はおかしい」と叩かれている。沖縄の島々の島民は、政府による中国脅威に煽られ、市町村で飛行場、港湾のインフラ整備が急ピッチで行われている。シェルターも作れ、逃げるために金は出すと札束で頬を叩く。反対する者は非国民!玉城知事を支える。黙っていると戦争になります。玉城知事は中国に行って「戦争をしない」と話している。



大城さん



水摩さん



10.17 第7回共同テーブル



10月17日、文京区民センターで「沖縄を再び戦さ場にするな!」をテーマに、「共同テーブル第7回シンポジウム」が開かれた。250名が会場を満席にした。

竹信三恵子さんの司会で始まり、発起人の佐高信さんが主催者挨拶。いつもの世相を斬る口調で岸田政権の腐敗を切り捨てた。【沖縄からの報告】◆山城博治さんが登場。「沖縄・南西諸島を戦場に



するな!」をテーマに語りました。戦争の危機は沖縄、南西諸島だけではない。九州全地域が対象に、どのような抑止力も存在はしないのです。



会場

10月27日には、共同テーブルちばの街宣行動が実施された。



共同テーブル千葉街宣

社民党、新社会党、アイ女性会議等が参加し、即時平和を求め訴えた。



鳩川さん

10.23 JAL 駅頭宣伝行動

JALによる不当解雇(年齢、病気を理由にパイロット、客室乗務員165名)から、12月31日で13年を迎える。長期にわたるJAL争議は当該解雇者を疲弊させている。JAL自らの放漫経営から経営破綻したことを現場労働者に責任転化し、有無も言わず解雇してきた。JALはその後の経営回復で多くのパイロット、客室乗務員を採用してきた。



JAL 争議者

しかし、解雇者の復職の願いは拒否を続けてきた。JHU(JAL非解雇者労働組合)は、都労委にJALと国交省に団交を求め救済申し立てている。国交省については、いまだに団交拒否を続けている。JHUは、早期解決



錦糸町駅前

を目指し、10月23日の夜も錦糸町駅北口で、当該組合員、支援者がリレートークで訴えた。客乗解雇者からは、「余剰人員だからと、こんな酷いことをした会社を今年の株主総会でものを申しました。私たちは人権回復のため頑張り、解雇自由の社会を許さない声を出しています。」と訴えた。

ユニオン平和に参加しましょう

ユニオン平和は、フォーラム平和・人権・環境に加盟しているユニオンの集合体です。平和・人権・環境に係わる諸課題の理論・情報・行動を発信していきます。

加入は、団体、サポーター会員として、個人単位での加入もお願いしています。

是非ご参加ください。

会費一年会費

団体：一口 1000円

個人：一口 1000円

※団体個人とも、可能な方は複数口お願いします。

※サポーター会員証を発行しています

平和・人権・環境

